

カトリック香里教会 待降節第3主日 2020年12月13日

神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。彼は光ではなく、光について証しをするために来た。エルサレムのユダヤ人たちが、祭司やレビ人たちをヨハネのもとへ遣わして、「あなたは、どなたですか」と質問させたとき、彼は公言して隠さず、「わたしはメシアではない」と言い表した。彼らがヨハネに尋ねて、「あなたはメシアでも、エリヤでも、またあの預言者でもないのに、なぜ、洗礼を受けるのですか」と言うと、ヨハネは答えた。「わたしは水で洗礼を受けるが、あなたがたの中には、あなたがたの知らない方がおられる。その人はわたしの後から来られる方で、わたしはその履物のひもを解く資格もない。」 -ヨハネ1章-

光について証しをする人になる



今日の福音書で洗礼者ヨハネは言います。「…あなたがたの中には、あなたがたの知らない方がおられる。その人はわたしの後から来られる方で、私はその履物のひもを解く資格もない」。同じように、もし、今日「私たちが、来るのを待っているキリストは、すでに私たちの中におられる」と言われたら、私たちは、彼を見分けられるでしょうか？

イエスの時代のユダヤ人たちは、メシアが自分たちと同じように、女から生まれて来るとは考えもしませんでした。イエスはあまりにも普通で、何も目を引くものではありませんでした。当時のユダヤ人たちと同じで、私たちも、周りの人々の中にイエスを見つけ出すのは難しいのです。

私たちはクリスチャンとして、祝福された秘跡、聖体、その他の秘跡の内に主がおられると感じるかもしれませんが、私たちの仲間の人間、特に貧しい人々、疎外された人々、見知らぬ人、そしてイエスが次のように言われた不幸な人々の中に、彼を見つけ出すことを忘れてはなりません。わたしの兄弟である、この最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしたのである。」(マタイ 25:40)。

ですから教会は、生き方によって、他の人がついてくるのを容易にし、分裂や憎しみではなく、愛と思いやりのメッセージを他の人にもたらすことができる本物のキリスト者を求めています。教会で、わたしたちは誰も、光ではなく、光について証しをする人になれます。周りの人に愛と思いやりの温かさを感じてもらい、このクリスマスをも有意義なものにしましょう。他の人を幸せにすることができるなら、どんな小さなことでも、やってみましょう。